

一般質問発言通告書

発言順位 12番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和4年 9月 6日

三島市議会議長 川原 章寛 様

三島市議会議員 14番 野村 諒子

質問事項1 楽寿園を市民の憩いの居場所とする取り組み

具体的な内容 三島市の中心に位置する楽寿園は、市立公園として開園して70年が経過しました。楽寿園は、国指定の天然記念物・名勝として親しまれ三島市民にとって市内で一番誇りに思える施設であることは言うまでもありません。しかし、イベント開催時以外の日に、どれだけの市民が憩いの場所として利用しているのでしょうか。年間2億円を超える運営費をかけている公園であれば、市民が日常的に気楽に利用したくなる公園としてリニューアルすることも必要ではないかと思います。そこで、市民の日常的な居場所となる取り組みについて伺います。

- 1 公園として広く認識していただくために「楽寿園公園」と表示できないか。
- 2 イベント開催日以外の開園日の平均入場者数の費用対効果について
- 3 8月に行われた無料朝開園「#みしま朝旅」の評価と今後の取り組み
- 4 開園時間を変更し、朝、6時半からの開園に出来ないか。
- 5 朝のストレッチ、朝の太極拳などを開催する等、朝の利用促進への取り組み
- 6 市民の憩いの居場所とするために、森林浴、樹木を楽しむベンチを設置出来ないか。
- 7 年間パスポートを有効活用し、日常的な利用促進を図る取り組み
- 8 動物飼育場所の糞尿のにおいをなくし、公園に相応しい管理運営への取り組み
- 9 北側花壇を芝生広場にして、自由に使える場所に変更出来ないか。
- 10 正門入り口（商工会議所側）付近の樹木を適正に管理し、明るい入口への取り組み
- 11 楽寿園のリニューアル費用は、企業版ふるさと納税として取り組めないか。

質問事項2 新築住宅への太陽光発電装置及び蓄電池設置への説明義務条例の施行について

具体的な内容 ウクライナへのロシアの侵攻以降、世界の石油需要のひっ迫から石油価格が高騰し、各家庭における光熱費の負担が大きくなっています。世界規模でエネルギーに対する議論がされていますが、カーボンニュートラルへの取り組みも企業だけでなく各家庭にも求められる時代になってきました。政府は、当面の打開策として原発再稼働を増やし、新設の原発への取り組みも進めようとはしていますが、原発依存から起きた東日本大震災の事故の経験から、安全な原発をつくることは相当な技術、時間、費用が掛かり、世界のエネルギー政策は、原発、石油、天然ガスに依存しない、再生可能エネルギーへ向けての研究開発が活発に行われるようになりました。

現在は太陽光パネルの種類も増えて、屋根用だけではなく壁用やガラス窓になる透明パネルも開発されるなど、建物の外壁がまるごと太陽光を活かした発電も可能になったようです。

また、蓄電池開発も活発になり費用も徐々に購入可能な金額に近づいてきているようです。これからの時代は、山を削ってつくるメガソーラーではなく、家庭やビルに設置された太陽光による分散型の発電システムによってまちのエネルギーが作られると予想されています。そのような中、三島市はスマートハウス設備導入費補助金を出し、利用されている方も多くいるようですが、三島市として再生エネルギー推進への取り組みを更に進めるための施策について伺います。

- 1 スマートハウス設備導入費補助金の交付状況について
- 2 新築住宅建設時に、建設業者が施主に対しスマートハウス設備（太陽光設備及び蓄電池等）についての最新情報を提供することを義務付ける条例を施行することは出来ないか